ニュージーランドの宿泊・カフェ・レストラン業界、10月の活動指数は約64とサービス業で最高に

宿泊・カフェ・レストランのサブ指数は景気拡大の節目を約14ポイント上回り、他の消費者向けサービスより力強い回復を示した

2026年11月16日（月）



ニュージーランドの宿泊・カフェ・レストラン業界は10月、サービス業調査で最も高い活動を示した。消費者向け支出の一部が上向く一方、他の裁量的支出に関連する分野では低調さが続いたことをうかがわせる。

BNZとBusinessNZが11月16日（月）に発表したデータによると、報告書に掲載された活動別の内訳で、Performance of Services Index（PSI）の同業界サブ指数は、季節調整前で10月に約64ポイントとなった。対象となるサービス業の中で最も高く、景気拡大と縮小の境目である50ポイントを

約14ポイント上回った。

この結果は、年初に報告された急激な落ち込みを経て、ホテル、飲食サービスおよび関連事業の活動が明確に持ち直したことを示している。PSIは生産量の水準ではなく、企業が報告した変化の方向を測る指標で、50を上回ると、悪化したと答えた企業より改善したと答えた企業の方が多いことを示す。

10月の業界別数値が目立ったのは、サービス経済のすべての分野が同じペースで改善したわけではない月に記録されたためだ。宿泊・飲食関連のカテゴリーは、内訳で低調さが続いたレクリエーションサービスなど、裁量的支出に結びつく他のサービス活動を上回った。

BNZとBusinessNZが11月16日（月）に発表した別の資料によると、季節調整済みの全国PSIは9月の50.9から10月には51.7へ上昇した。総合サービス指数は小幅ながら拡大圏にとどまり、2025年10月の48.8を上回った。

全国値と、宿泊・カフェ・レストラン業界の大幅に高い数値との差は、サービス業の回復が一様ではなかったことを示している。家計や企業を取り巻く経済環境には依然としてばらつきがあるものの、宿泊・飲食事業者は他の多くのサービス提供者より強い需要回復を報告したとみられる。

サービス業の調査では年初、多くの消費者向け事業者にとって厳しい状況が示されており、10月の数値はとりわけ注目される。そうした状況を踏まえると、サブ指数が64近くに達したことは、少なくとも月次ベースで宿泊・飲食分野の環境が広く改善したことを示唆する。この数値は報告書のグラフから読み取った概算で、季節調整もされていないため、全国の総合指数と厳密に比較できる値ではなく、改善の方向を示す強いシグナルとして捉えるべきだ。

それでも、調査が示す内容は明確だ。宿泊・カフェ・レストランは10月のサービス業の中で最も好調なカテゴリーとなり、他の一部業界で勢いを取り戻すのに苦戦するなか、景気拡大の境目を大きく上回った。

宿泊・飲食業は家計支出、国内旅行、観光客の動向と密接に結びついているため、この結果は経済全体にとっても重要だ。同カテゴリーの数値上昇は、消費者が自粛期間を経てレストランやカフェ、宿泊施設に戻りつつあることを示す可能性がある。また、当月に売上が改善し、客足や予約が増えたと事業者が感じていたことを示唆する場合もある。

サービス業はニュージーランド経済の大きな割合を占めるため、サービス業全体の調査も重要だ。全国PSIが50を上回ったことは急速な成長を意味しないが、サービス業全体が再び拡大圏に入り、9月から改善したことを示す。この中で宿泊・飲食業の数値が大幅に高かったことは、一部事業者が全国平均より速いペースで回復していたことを示している。

BNZとBusinessNZは11月16日（月）、業界別の内訳と全国値の資料をそれぞれ発表した。業界別の詳細はServices Landscapeレポートに、全国の総合値は別の発表資料に掲載された。両資料を合わせると、10月のサービス業全体の回復は緩やかだった一方、宿泊・カフェ・レストランが勢いの再燃を最も明確に示す分野の一つとなったことが分かる。